

「会計学」講義
－変容する現代の会計－

石川純治（駒澤大学）

● 講義の概要

最近、会計上のトピックスが一般紙にもしばしば登場してくる。会計および監査が今日ほど社会の注目を受けることはかつてなく、会計制度の大変革いわゆる「会計ビッグバン」が社会経済に大きなインパクトを与えているわけである。この大きく変容する現代の会計を読み解くため、「歴史」、「理論」、「社会」の3つの視軸をとおして講義を進める。

● 講義の目標

個々の新しい会計基準を知ることよりも、大きく変容する現代の会計をトータルに理解することがより大切である。変容の今日的なあり方はいかなるものか、その変容は何処からくるか、会計の基本的な考え方は大きく変わったのか、変容する現実社会のなかで会計がどのように機能しているか、といった点の学習が大切である。本講義をとおして、**変容する現代の会計のトータルな理解と将来の予見**に役立つことを目標とする。

● 講義の内容

〈Part I〉簿記の歴史と理論

(1) 歴史のなかの会計～温故知新～

講義のプロローグとして、会計を歴史の文脈で学習することの大切さを知ってもらう。現代の会計を真に理解するには、過去の会計を知ることが大切だからである。

《キーワード》：複式簿記の起源と伝播、口別損益計算、期間損益計算、近代会計、現代会計、会計士会計学

コラム1：「教養」としての会計学

(2) 簿記とは何か～単式、複式、三式～

会計の基礎には複式簿記があり、複式簿記のない会計は考えられない。講義では簿記の常識・通念を根本的に問う「思考簿記」の面白さに焦点を当て、「検定簿記」の学習を相対化する。

《キーワード》：単式簿記、複式簿記、複式簿記の内容と形式、展開表簿記、三式簿記

コラム2：0式、1式、2式、3式

(3) キャッシュフローの簿記・会計～第3の財務表、その記録計算の仕組み～

損益計算書、貸借対照表に次ぐ第3の基本財務諸表であるキャッシュフロー計算書を取り上げる。本章では、特にその記録計算の仕組み（構造）に焦点を当てる。

《キーワード》：キャッシュフロー計算書、直接法、間接法、キャッシュフロー経営、キャッシュフロー革命

コラム3：キャッシュ・フロー計算書のルーツ

(4) 損益計算とキャッシュフロー計算～同型性と相対性～

損益計算書とキャッシュ・フロー計算書はその計算目的を異にしている以上その会計形態を異にしているが、その形態の基底には相共通する構造が存在すること（記録・計算の同型性と相対性）を明らかにする。

《キーワード》：変動貸借対照表等式、財産法と損益法、間接法と直接法、複式仕訳、振替、同型と相対

コラム4：簿記会計をいかに学ぶかーヨコ学習の大切さ

(5) 複式簿記のサイエンスー複式簿記とは何であり、何でありうるかー

これまでの議論をふまえて、複式簿記とは「何であったか」（過去）、「何であるか」（現在）だけでなく、さらに「何でありうるか」（未来）という問にも答えるために、複式簿記のサイエンスといった方法について議論する。

《キーワード》構造と形態、同型と相対、技術性と歴史性、記録媒体と記録方式、複式簿記のスケルトン、複式簿記と数学

コラム5：技術性と歴史性をつなぐもの

〈Part II〉 現代の会計を読み解く

(6) 企業会計の基本的考え方～「企業会計原則」の立脚点～

今日の企業会計の変容を考える際、議論の出発点をどこにおくかが極めて重要になる。そこで、その出発点をこれまでの会計ルールの基礎にある「企業会計原則」、とりわけその立脚点（基本的考え方）に求めて議論を進める。

《キーワード》：企業会計原則、動態論、会計思考、会計配分のモデル

コラム6：資産＝「費用のかたまり」と減損会計－応用問題－

(7) 会計ビッグバン（1）～金融商品会計と「企業会計原則」～

「会計ビッグバン」にともない新しい会計基準が次々に導入されたが、本章ではその代表格である金融商品会計を取り上げ、前章での「企業会計原則」の基本的考え方に照らして、それとの整合・非整合性の問題を考える。

《キーワード》：企業会計原則の変遷過程、実現主義、金融商品会計、会計の制度性、計算と開示

コラム7：動態論思考の今日的不適合性－ビランツ・シェーマと今日の金融資産・負債観

(8) 会計ビッグバン（2）～退職給付会計と「企業会計原則」～

前回は金融商品会計を取り上げたが、今回は退職給付会計を取り上げる。ここでも、この新会計基準が「企業会計原則」の部分修正の延長上にあるかどうか、とりわけ「発生」で説けるかが問われる。

《キーワード》：発生主義、退職給付会計、引当金、同一のロジック、実態開示と損益計算

コラム8：同一のロジックをみる－発生主義と「配分」－

(9) 変容の全体をどう見る～3つの見方～

従来の会計基準と新しい会計基準とからなる今日の企業会計の全体をどう見るか、その見方に大きくは3つあることを示す。そして、それが変容の度合いの見方の相違でもあることを明らかにする。

《キーワード》：拡張の論理、補完の論理、区別の論理

コラム9：“オパチュニティ”としての利益

(10) 変容の形と方向～ハイブリッド性～

今日の企業会計の変容がどのような「形」になっているか、さらにその変容がいかなる「方向」（ベクトル）を向いているかを、その基礎から明らかにする。

《キーワード》：会計計算の枠組み、配分と評価、ハイブリッド構造

コラム10：情報開示が利益を生む？－「記録なくて情報あり」の会計

(11) 新たな会計秩序を求めて～会計基準の憲法作り～

新たな会計秩序の構築に向けた概念フレームワーク作りを取り上げ、そこでの基本的な考え方をこれまでの考え方との比較において議論する。

《キーワード》：企業会計原則、日本版概念フレームワーク、2つの整合性問題

(12) トライアングル体制のゆくえ～規範と現実～

企業会計と密接にかかわっている商法（会社法）および税法の変容をみることで、企業会計、商法会計、税務会計のいわゆる「トライアングル体制」の今日の変容を取り上げる。

《キーワード》：企業会計、商法会計、税務会計、トライアングル体制

〈Part Ⅲ〉 社会のなかの会計

(13) 経済のグローバル化と会計～社会と会計（1）～

経済のグローバル化に応じて、会計もグローバル化する。そこで、企業会計の国際化の事例も交えて、会計国際化の問題を取り上げる。

《キーワード》：国際会計基準、EUと2009年問題、会計外交

(14) 投資家資本主義と会計～社会と会計（2）～

(1)でもみたように、会計は社会経済の変化とともに発展変化する。講義では国内外で起きた会計・監査の不正事件などの事例をとおして、今日の資本主義経済のなかでの企業会計のあり方を論議する。

キーワード：投資家資本主義、会計不信、不正監査

(15) 金融システムの再生と会計～社会と会計（3）～

今日の社会経済ではモノ（実物）とともにカネ（金融）の経済が重要である。講義では金融システムの再生と会計とのかかわりをいくつかの事例をとおして論議する。

キーワード：銀行と不良債権、繰延税金資産、保険会社の利益開示、保険時価会計

(16) 中小会社と会計～社会と会計（4）～

株式会社の9割以上は中小の非公開会社である。(13)でもたように公開大会社むけの企業会計が限りなく国際化するなか、それとは自ずと性格を異にする中小会社の会計を取り上げる。

《キーワード》：中小会社会計、非公開と会計、ダブルスタンダードとシングルスタンダード、新会社法、会計参与、融資と会計

(17) 自治体と会計～社会と会計（5）～

今日、地方自治体の財政破綻が問題になっているが、東京都は発生主義など企業会計の手法を取り入れた新たな財務諸表を作成することにした。そこで、いくつかの事例をとおして自治体行政に会計がどこまで役立つかを検証してみたい。

《キーワード》：自治体、行政、公会計

***学習のために**

石川純治『変わる社会、変わる会計』日本評論社、2006年。

石川純治『キャッシュ・フロー簿記会計論（3訂版）』森山書店、2005年。

石川純治『時価会計の基本問題』中央経済社、2000年。

ウェブサイト：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm>

（駒澤大学トップページ→大学院・学部等→教員紹介→経済学部→石川純治）

①「インターネット講座」、②「時事会計教室」、③「講義紹介」など。